

## 第14回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時	令和3年11月10日（水）13：30～14：50	
場 所	遠野市立図書館 視聴覚ホール	
出席委員数	9人中7人出席	
出席委員	荒田昌典、岩崎真幸、大橋進、兼平賢治、熊谷常正、 今野日出晴（リモート）、藤田俊雄	
欠席委員	齊藤利男、菅原伴耕	
事務局	石田久男	多文化共生・本の森特命担当部長
	宮田秀一	市史編さん室長
	前川さおり	市史編さん室次長
	小島芳枝	市史編さん室主任
	阿部信代	〃
	熊谷航	〃
	菅原聡	〃

（進行：前川次長）

### 1 開会

### 2 委員長挨拶

### 3 報告

事務局より資料にもとづき報告。質疑なし。

### 4 意見交換

- ・ 各グループ、部会ごとに、委員から各巻の編目構成、原稿体裁、作業の進捗状況等を報告。

（DVD等電子媒体の扱いについて）

- ・ DVDの扱いは、部会ごとの判断になるのか、全体で統一するのか。  
⇒ 一律に統一するのではなく、それぞれで必要があれば付ける想定。
- ・ 画像、動画、膨大な文字資料をDVDにまとめたスペシャル編のような形で、独立させてもよいのでは。
- ・ 写真などの提供を市民に呼びかけ、たくさんいいものがあればそれをDVDなり、サイトで公開するといった別な形ができるのか、議論したい。写真編という編にできるのか、近代でやったほうがいいのか、民俗でやったほうがいいのか。
- ・ 本来は、本としてきちんとした体裁を確立することが前提で、そのうえで保管も考えた遠野市史写真集、DVD全集のようなものあればわかりやすい。  
⇒ それぞれの部会でDVDに収録したい内容をもんでもらい、どういったものがどれだけのボリュームになるかをみて検討。
- ・ DVDの耐用年数は考えなくてよいのでは。事務局で元データのバックアップをとって、いずれはアーカイブで公開していくもの。

- ・ 音声データを含め、デジタル資料をどうやって保管していくかは、どこかの時点で議論が必要なのは。
- ⇒ 市史編さんが完了した後の資料をどこでどのように扱っていくか、青森県史など先進的にやっている自治体から学びながら、今後検討していく。
- ・ 電子媒体については、各巻で共通した技術のものがよい。事務局で、現在の技術、値段、費用などの研究もしてほしい。

(『遠野物語』、民俗研究史の扱いについて)

- ・ 民俗編で、遠野郷を中心とした民俗研究史を総括しておく必要はないか。
- ・ 『遠野物語』や遠野民俗研究史は、民俗編や近現代編で触れなくてはならない大きな課題である。
- ⇒ 近現代では歴史的な視点から、民俗では民俗学的な視点から、双方で調整しながら取り上げていく。

(その他)

- ・ 史跡の空撮の話があったが、近世も通史編用に、風景写真を普段から集めていく必要がある。ドローン撮影も使えるなら使ってみたい。
- ・ 考古の資料編で、板碑や五輪塔などは扱わないのか。鱒沢の安部坊跡の板碑や松崎観音の石碑は中世のものということで、遺跡編の片隅にでも入れたほうがよい。
- ⇒ 石造物は、考古では現状入っていないが次のグループ会議で検討する。中世文献のほうで引き取る可能性もあり、どちらで扱うか決める必要がある。
- ・ 石碑は、近世でも近現代でもあるが、時代で分けて扱うことでよいか。
- ⇒ 暫定的に時代分けで。

## 5 その他

大橋委員長より、現代編の活用について。現代編をいろいろな意味で活用しながら、次の遠野市の行政がどうあるべきかということにつなげていくことが大事。新採用職員に配布して読んでもらうなど、利用してほしい。

## 6 閉会